前橋市子ども読書活動推進計画（第四次）（案）に係る
パブリックコメント（意見募集）の実施結果について

図書館

1　意見募集期間

令和７年１月８日（水）から３１日（金）まで

2　意見提出者及び意見数

・意見提出者数：１人

・意見提出件数：３件

3　意見の概要及び市の考え方

前橋市パブリックコメント手続実施要綱に基づき、いただいたご意見に対する市の考え方を公表します。

No.	意見の概要	市の考え方
1	・デジタル（ＩＣＴ）との併用促進 ＧＩＧＡスクール構想によってＩＣＴ活用が多くの子どもに行き渡り、読書・学習の充実が図られると思われます。一方で日本よりもＩＣＴ教育を先に推進していたスウェーデンやフィンランドでは、タブレットの活用時間を減らす、紙の教科書の再配布といった動きもあるようです。幼少期からタブレットやスマートフォンを見すぎることによる身体的な影響も考慮すべきだと思われます。電子書籍やデジタルによる読書環境の整備には科学的見地も求められると思います。	計画策定に向け実施したアンケート結果では、電子書籍に対して、メリットを感じつつも慎重な考え方が多かったことからも、発達段階に応じた子どもの読書環境への影響を把握し対応していく必要があります。紙の本と電子書籍を切り離すのではなく、双方のよい面を活用していくことが重要です。両者を適切に使い分ける力を身につけることで、読書の質が高められることを伝え、子どもたちを支援していきます。
2	・民間との連携 子どもの読書推進計画という観点から学校、公共図書館の記載が多く割かれている印象です。図書館の充実、蔵書の更新は重要な観点ですが、一方で民間（書店）との連携も検討すべきと思われます。 現在経済産業省が書店振興の観点からプロジェクトチームを立ち上げており、また文部科学省には書店・図書館連携事例が掲	子ども読書活動推進計画（第四次）では４つの活動方針を揚げ、方針４「社会全体で読書活動推進に取り組むための連携及び周知啓発」としています。地域で活動する読み聞かせボランティアなどの団体と連携し、前橋ブックフェスなど、本に関係するイベントに協力・参加し、本に親しみ、楽しむ機会を増やす取り組みを行います。

	載されています。 　前橋市は市立図書館が再開発によって中心市街地に移転予定と伺っております。より民間（書店に限らず）との連携が求められると思われます。	
3	・移動書店・移動図書館の検討 　図書館は各学校にある一方で、予算の関係で蔵書の更新が滞る場所もあると聞きました。また、書店の閉店が続き、そもそも本に触れる場所も少なくなってきていると思われます。例えば開発が進むローズタウン周辺には書店が１店舗もなく、公共図書館も離れていると聞いたことがあります。学校以外にも本に触れる場所を作ることで、様々な本に出合えるようになると考えます。移動図書館、移動書店を行っていくこともよいのではないでしょうか。	本市では利用者の減少などから平成２９年３月に移動図書館を廃止しましたが、令和４年５月に永明分館を開館したことで市内全地区への図書館分館の設置が完了しました。読書活動への関心を高める取り組みとして、図書館本館と分館の連携により、どこでも借りられ、どこでも返せる図書館という利便性を継続していきます。

※とりまとめの都合上、意見等の内容は適宜要約しています。